

NPO 法人ワンダーポケット2015年度事業報告

【特定非営利活動に係る事業】

1. 病気の子どもたちが良質な医療を受けるための環境整備に関する事業

(事業費 81,853 円)

● 病院での出張イベントの企画・開催

(1) 『クリスマスイベント』の開催

開催日時；2015年12月22日(火)、24日(木)及び25日(金)

開催場所；東北大学病院、仙台市立病院、仙台赤十字病院及び国立病院機構仙台医療センター

対象者；入院中の0歳～小学生の子どもたち

対象者数；仙台市立病院 22名

東北大学病院 23名

仙台赤十字病院 49名

国立病院機構仙台医療センター 23名

概要；仙台市立病院と東北大学病院、国立病院機構仙台医療センターにおいては、各病院のスタッフがサンタ隊として子どもたちにプレゼントを配布して下さることとなり、ワンポケではプレゼントを作成・ラッピングし、イベント当日に病院スタッフへお届けするところまでを担当した。

仙台赤十字病院においては、ワンポケのスタッフでもある病院スタッフがサンタクロースやツリー、トナカイの扮装をし、入院中の子どもたちへプレゼントを手渡した。また、小児科病棟では、病棟主催のクリスマス会に合流し、会が始まる前の工作タイム(キャンドル作り)やプレゼント配布を担当した。終わったあと、会には来られなかった子どもたちの病室を訪問し、ベッドサイドでプレゼントを手渡した。

配布したプレゼントはキャンディ・レイ(中身はビーズのアクセサリやミニリース、折り紙製の独楽、マグネット、ミニカー、風船など)、毛糸とフェルトで作った指人形、厚紙とフェルト製の写真立てなどで、その多くは例年同様ボランティアやスタッフの手で作られたものである。これらに加え、株式会社シーシー様よりご寄付いただいた歯ブラシや、大日本住友製薬株式会社様からの協賛費にて購入した文房具類もあわせてラッピングし、子どもたちの年齢に応じたプレゼントを配布した。

プレゼントの作成に協力して下さったボランティアは約20名以上と、多くの方々の協力のもとイベントを成功させることができた。

2. 病気の子どもたちとその家族を支援するための事業

(事業費 843,077 円)

● 宿泊施設“ラッコハウス”の管理運営

運営期間；2015年4月1日から2016年3月31日まで

利用日数；65泊(96日)

利用者数；延べ119人(延べ31家族)

概要；2015年度は昨年度とほぼ変わらない利用数であったが、お盆や年末年始などにはキャンセル待ちのご要望をいただくこともあった。

毎月のように利用されるご家族もいらっしゃるほか、東北大学病院では小児病棟にパンフレットを配備しラッコハウスについて随時紹介して下さっているため、新規利用希望者からの問い合わせや申し込みも数多くいただいた。利用者の皆様に記入いただいているアンケートには、「食器などがあり紙皿などを買っていかなくても良いので、便利。洗濯が

出来て良かった」「とてもリラックス出来た」「いつも部屋が綺麗で、備品・おもちゃも充実しているので助かる」「ホテルと違って自宅のようにくつろいで過ごせて良かった」「部屋はとても広く、家庭的で満足している。とても助かった」「2回目の利用だが前回同様、清潔で過ごしやすかった」「こういう所があると知らなかったので本当に感謝。お部屋も清潔で、スタッフもとても優しく親切で感謝している」などの感想が寄せられた。

利用者の方からは、お子さんの病状の急な変化や病院の混雑状況等により、直前に利用日やチェックイン時間の変更などの連絡が入ることもあったが、ハウス近くに住むハウスマネージャーのご協力により、臨機応変な対応をすることができた。

●病児の兄弟姉妹の交流会「きょうだいの会」の開催

開催趣旨；重い病気を患うきょうだいをもつ子どもたちは、家族の配慮にもかかわらず、孤独感や不安を抱きやすいことが知られている。このような境遇にある子どもたちが大人のスタッフ・学生ボランティアと一緒にゲームをしたり、豊かな自然に触れたりすることで、ストレスを発散し孤独感や不安感を癒すことが出来る心の居場所となるような場を提供する。

開催回数；4回

参加者数；延べ22人（11家族の子ども）

概 要；各開催概要は次のとおり

第1回きょうだいの会

開催日時；2015年7月18日（土）

開催場所；宮城学院女子大学

参加者数；子ども3名 ジュニアボランティア1名 学生ボランティア10名
スタッフ4名

※ジュニアボランティアとは…もともときょうだいの会の参加者であった子どもが高校生になり、きょうだいの会の対象年齢を超えた。しかし、自らが学生ボランティア（お兄さん・お姉さんの存在）に救われた経験を下の子どもたちに返したいという思いから、続けて参加を希望しているため受け入れている。実際には学生ボランティアとは切り離して捉え、あくまでも参加者であり子どもたちとは極めて近い距離で接しており、ワンボケスタッフはその本人の見守りを続けている。

概 要； きょうだいの会責任者である足立智昭理事と、宮城学院女子大学の学生ボランティアが企画した二つの活動を実施した。

一つ目の活動は『みんなでクッキング』と題し、昼食の料理企画を行った。キーマカレーと夏野菜カレーの2種類のカレーと、ナンをみんなで作って食べた。宮城学院女子大学の学生ボランティアが中心となって、子どもたちに野菜の切り方や手順を教えてくれた。ナン作りが初めてという子どもが多く、生地を顔の形にしてみたり、フライパンに入りきらない程の大きにしてみたりと、とても楽しそうに活動に取り組んでいた。

二つ目の活動は足立先生による『みんなでケーキの箱で家を作ろう』というワークショップで無地の箱に色紙やフェルトボール、綿などをカラーシュして作品を作った。箱の外側に「普段みんなに見せている自分」、内

側には「自分の心の中、本当の自分」を表現していくという活動だったため、子どもたちは作品のイメージをつかむことや「こうしたい」という思いを形にする作業に少し難しさを感じている様子だったが、学生ボランティアにアドバイスをもらい思い思いに造形していた。出来上がった作品は、外はシンプルだが内は細部にまでこだわっている作品や、内外共に綿をふんだんに使いフワフワした優しさが表現されているもの、箱内にハートが沢山あるものなど、どの子どもも集中して自分と向き合って作っていることが見て取れた。

この後、体育館に移動しドッチボールの時間を設け、思う存分からだを動かして遊んだ。どの子どももみんな汗を流しとてもいい表情で楽しんでいた。

第2回きょうだいの会

開催日時；2015年10月3日（土）

開催場所；かまぼこの鐘崎 笹かま館
仙台うみの杜水族館

参加者数；子ども6名 ジュニアボランティア1名 ボランティア6名

概要； おでかけ企画としてバスで上記2ヶ所へ向かった。まず最初は笹かま館で笹かま作り体験を行った。材料を丸めて、棒につけるところから、型にはめ込み、焼く作業までを体験した。焼き機でかまぼこを焼く工程では落とさないように、こげないように慎重に作業を進める子どもたちの真剣な表情が印象的で「熱い」「ちょっと怖い」などと声をあげながらも一生懸命取り組んでいた。自分で作った「自分だけの笹かま」をみんなで美味しく食べた。この後、キリンビール仙台工場にある「レストランキリンピアポート仙台」で昼食をとった。

午後は「仙台うみの杜水族館」へと移動し、子どもたちはスタッフやボランティアの付き添いのもとそれぞれ自分のペースで館内を見学した。新設の施設ということもあり、まだ行ったことがない子どもたちがほとんどで、大水槽の前では「わあ〜〜〜」と大きな歓声をあげていた。自分の描いた魚をスクリーンで泳がせることができる「お絵かきアマモリウム」に挑戦した子どもは、夢中になって色を塗り虹色のタツノオトシゴを描き、スクリーンで泳ぐ自分の魚に大興奮して楽しんでいた。自分のペースで過ごしながらも、時々「みんなはどこに行ったかな」と気にしたり、ショーの会場では向こう側の席にいる子を発見して手を振ったりと、きょうだいの会の『仲間』という気持ちを持って過ごしているようだった。初参加の子どもも、初めのうちは不安と緊張が強かったようだが、後半には笑顔も見られ楽しんでいる様子だった。

第3回きょうだいの会

開催日時；2016年1月17日（日）

開催場所；日立システムズホール仙台（青年文化センター）

参加者数；子ども4名 ジュニアボランティア1名 ボランティア9名
スタッフ5名

概要； 日立システムズホール仙台のッキングルームとアトリエを借りて、料理企画とワークショップを行った。午前中の料理企画では、一般ボランティア2名を先生として招き、ちらし寿司や茶碗蒸し、お吸い物の昼食の他、午後のおやつ用にパウンドケーキ2種類を作った。先生方へあらかじ

め、子どもたちが担当する作業と、ボランティアが行う作業を細かく準備してもらっていたので、これまでに比べ品数が多いにもかかわらずスムーズに進めることができた。ちらし寿司や茶碗蒸しに入れる具材を自分たちで好きなようにトッピングするように告げると嬉しそうに盛り付けていた。

午後は宮城大学の学生ボランティアによる『オリジナルのお面とTシャツを作ろう』というワークショップを行った。用意された様々な材料の中から自分のお気に入りを見つけ作業を進めた。自分から「こんな風にしたいんだけどどうしたらいい？」などとボランティアに話しかけ、細部にまでこだわった自分のためのTシャツを真剣な表情で作っていた。完成した作品は、大人には到底想像できないような仕掛けやデザインになっており「これは〇〇で、これは〇〇なの」と一つひとつに意味を持たせて作っていることを報告していた。ワークショップ後は台原森林公園へ出かけ、散策や全員で長縄をして楽しんだ。1月の寒い時期であったが、子どもたちは外で遊びたいと朝から張り切っていた。室内へ戻り、午前中に焼いたケーキを食べながら1日を振り返り、最後まで賑やかに楽しく過ごした。

第4回きょうだいの会

開催日時；2016年3月12日（土）

開催場所；山形蔵王温泉スキー場 上の台ゲレンデ

参加者数；子ども5名 ジュニアボランティア1名 ボランティア6名
スタッフ2名

概要；今年で4回目となる『スキー企画』。今回もバスで山形蔵王スキー場に向かい、スキーの体験活動を行った。参加者のうち半数はスキー初心者の子もだったが、現地のインストラクターやボランティアにアドバイスをもらいながら練習をすると、あっという間に上手に滑れるようになっていた。全くスキーの経験がない子どもには、インストラクターが補助器具を用いて楽しませてくれた。5～6時間ほどゲレンデで過ごし、怪我などもなく無事に終了した。

●ボランティア感謝会の開催

開催日時；2016年2月28日（日）

開催場所；長町遊楽庵『びすた〜り』

開催趣旨；ワンポケの役員やスタッフが、各活動に携わったボランティアや協力団体、病院関係者などを招待し感謝を伝えるとともに、活動報告や情報交換の場とする。

概要；当法人の役員や運営委員が、昨年一年間にお世話になったボランティアや協力企業の方々、病院関係者の皆様などをお招きして食事をしながら交流し、日ごろの感謝を伝えた。各活動を紹介するスライドショー上映やじゃんけん大会も行い、和やかな雰囲気の中で、ワンポケの活動への思いを話し合った。

●被災地における心や体のケアが必要となる子どもたちや、その周囲の支援者への支援

対象者；保育士

開催日・場所；2015年8月7日（金）石巻市ビックバン

参加者数；38人

開催日・場所；2015年8月26日（水）岩沼市民会館

参加者数；22名

開催日・場所；2016年1月21日（木）名取市文化会館

参加者数；18名

開催日・場所；2016年3月12日（土）石巻ビックバン

参加者数；23名

概要；震災後、多動で落ち着きがない子どもが保育所などで多数報告されている。これらの子どもたちの中には、発達障がい疑われている幼児もいるが、震災や虐待によるトラウマ反応として、多動や落ち着きのない行動を示す幼児も少なくない。

小講義において、これらの幼児のアセスメントや対応について解説し、個々の事例に対してもスーパーバイズを行った。

3. 病気の子どもたちの権利を擁護する事業

病気の子どもたちの権利を擁護する事業は、2015年度は実施しなかった。

4. ボランティアを育成するための研修プログラムの提供事業（事業費 6,471円）

●ボランティア・スキルアップ講習会の開催

開催日時；2015年10月17日（土）

開催場所；宮城県立こども病院 愛子ホール

開催趣旨；病院の小児病棟などで活動をしているボランティアの方々や、これから病院ボランティア活動を志す方々、保育士や学校教育に携わる方々など幅広く子どもに寄り添う人々を対象に、子どもを取り巻く社会環境の問題点を抽出し、共通理解を深める。ボランティアの質の向上、モチベーションの維持を目指し、活動意義や活動内容に伴う知識を習得する。また、ワンダーポケットの活動を一般の方たちに理解していただく場所として企画・開催し、ワンダーポケットの活動のための組織強化を図ると共に、ボランティア同士の情報交換の場とする。

講義内容；『メディアにむしばまれる子どもたち～小児科医からのメッセージ～』

講師；田澤 雄作先生

受講者数；約40名

概要；昨年度に引き続き、宮城県立こども病院との共催でボランティア・スキルアップ講習会を開催した。当法人の田澤理事長を講師として、過剰な映像メディアとの接触が子どもたちのこころや体、脳にどのような影響を及ぼしているか、現代社会を生きる子どもたちがどんな過酷な状況にいるのかなどを実際の症例や実験・集計データを交えてお話しいただいた。受講者はデータが紹介されるたびに驚き、講師からのメッセージに熱心に耳を傾けていた。

受講後のアンケートには「ゲームやテレビ以外で、子どもたちに日々の生活の楽しさをどれだけ伝えられるかが自分の今後の課題であると思いました」「病院に来た子どもたちがある程度の期間ゲームをやめただけで、見違えるように変わったことや、現代の大人の絵が記号化されていたことが印象的でした」「テレビやスマホの使いすぎが良くないと理解していても辞めさせるのがどんなに困難なことか…親世代もメディアにどっぷり浸かっている現代、どのようにしてメディア利用を減らす方向へ持って行くか、皆で考えなければならないと思います」など多くの感想が寄せられた。アンケート欄いっぱい感想が書かれており、今回のテーマへの関心の高さや、子どもたちの現在や未来に対する受講者の思いの強さを感じた。

●ワンダーポケット「きょうだいの会」勉強会

開催日時；2015年6月24日（水）

開催場所；宮城大学構内

開催趣旨； きょうだいの会に参加する学生ボランティアを対象に「きょうだい」を取り巻く家庭環境の問題点を抽出し、共通理解を深める。ボランティアの質の向上、モチベーションの維持を目指し、活動意義や活動内容に伴う知識を習得する。また、ワンダーポケット及びきょうだいの会の活動を学生たちに理解していただく場所として企画・開催し、ワンダーポケットの活動のための組織強化を図ると共に、ボランティア同士の情報交換の場とする。

講師；足立 智昭先生

受講者数；約 20 名

概要； きょうだいの会責任者の足立先生を講師として、宮城大学の学生ボランティアを対象に「きょうだい」の心の状況、「きょうだい」に必要な心のケアとはどんなものかについてお話しいただいた。そのうえで、きょうだいの会が目指すところや、どのような活動が望まれているかについて理解してもらう場となった。学生からは多くの質問が寄せられ、関心の高さがうかがえた。

●ワンダーポケットの活動を通じたボランティアの育成・支援

活動事業；総会、ボランティア講習会、クリスマスイベントなど

従事者数；延 130 人

概要； ワンダーポケットが主催したイベントの際には、宮城大学や宮城学院女子大学の学生をはじめ、一般のボランティア希望者へブログやフェイスブック等を通して呼びかけを行い、ボランティア活動の場を提供した。各イベント後には成果や反省点等を共有する機会を持ち、継続的なボランティアの育成を図った。

5. この法人の活動に関する一般社会の理解をより深めるための広報、啓発事業

(事業費 210,986 円)

●ホームページ、ブログ「ラッコのしっぽ」、フェイスブックの継続

ホームページやブログをイベント開催前や終了時を中心に随時更新するとともに、ワンダーポケットのフェイスブックも併用し、外部への情報公開や会員・支援団体への活動状況報告、ならびに各イベントやボランティア作業への参加呼びかけのツールとして活用した。

●ワンダーポケット通信の発行

発行回数；2回

発行部数；各 150 部

概要； ワンダーポケットの活動状況を、会員やこれまで様々な形で活動を支援してくださっている方々に知らせていくため、ワンダーポケット通信 Vol.27 および Vol.28 を発行した。Vol.27 では 2014 年度後半の活動報告を行い、Vol.28 は 2015 年度前半の活動を報告する内容となっている。

●法人の広報活動に活用するため、これまでの活動の記録をまとめた冊子を作成

作成部数；1,000 部

内 容； 年表や理事の挨拶のほか、ラッコハウス内の写真や利用者の感想、きょうだいの会の写真なども多く取り入れ、ホームページのイメージを活かしカラフルで優しい雰囲気デザインになっている。今後、会員や外部への広報活動、他の支援団体との交流など様々な場面で活用し、ボランティアや寄付を募るツールとしても役立つ。

- 法人紹介リーフレットおよびラッコハウス案内リーフレットを改訂実施出来なかったため、来年度実施することとする。

6. その目的を達成するために必要な事業 (事業費 26,135 円)

●『ワンダーポケット』の組織強化活動

(1) 新規会員募集活動の実施

ボランティア・スキルアップ講習会の開催の場を活用して新規会員を募ったほか、役員や運営委員からも周囲へ会員募集の声かけを行った。その結果 8 名が新たに会員となった。

(2) 現在の会員数の状況

2015年度3月末時点の全会員数は96名で、その内訳は一般会員80名、学生会員1名、賛助会員15名(うち団体4)となっている。また会費の未納者は14名で未納額は42,000円である。

なお、2015年度は6名が退会した。

●会議の開催

(1) 理事会の開催

①開催日時；2015年6月4日(木)

開催場所；舞鶴

議 題；総会に付議すべき事項について

(2) 総会の開催

開催日時；2015年6月13日(土)

開催場所；仙台市市民活動サポートセンター研修室5

議 題；2015年度事業報告及び決算報告
2016年度事業計画案及び予算案

●事務局の運営等

(1) 事務局員(1名)

(2) 運営委員会の開催 計3回

(3) 実行委員会の開催 計8回

【その他の事業】

その他の事業(物品の販売事業及びチャリティー事業)は、2015年度は実施しなかった。